

大型連休により稼働日減、売上不振

5月の業界WEATHER

全業種平均



前年同月比

概況

月初が大型連休の後半にあたった影響が多く業種に及ぶ。食料品、建設業、運輸業と、製造・非製造を問わず、稼働日が減少したことで売上の減少や業況悪化の状況が発生。また、機械・金属で米中貿易摩擦の実害がでているほか、卸売業でその悪影響を懸念している様子が見られる。

| | | | |
|------|---------|--|---|
| 製造業 | 食料品 | | 全体的に、大型連休の悪影響が出ている様子が見られる。パンは、学校給食の減少により業況悪化。菓子は、連休後半に客足が遠のき売上減少。製麺は、連休中の荷動きは平年並みに留まる。酒造は、普通酒以外の売上が前年を上回り売上増加。食肉は、稼働日数減となるが、豚肉の価格上昇により前年並みの売上確保。 |
| | 繊維・同製品 | | 桐生織物は、婦人服地で秋冬物の出荷が続くほか春夏物のサンプルを作成、輸出向けは低調に推移、和装織物は夏物の出荷が一段落。伊勢崎織物は、広巾織物が活況だが、依然状況は厳しい。ニットは、コスト上昇分を販売価格に転嫁し業況に変化なし。繊維製品は、春夏物の伸び悩みが秋冬物に悪影響を及ぼしている。 |
| | 窯業・土石製品 | | 生コンは、多くの割合を占める中央部の出荷量が大きく落ち込み売上減少。砕石は、吾妻地域のみ好調となるが、全体では路盤材・生コン材が低調な荷動きとなり収益悪化。砂利は、工事発注の端境期であることに加え、休業日が多かったため売上減少。コンクリートブロックは、売上・収益ともに前年並みを維持。 |
| | 機械・金属 | | 鍍金は、半導体関係が緩やかな改善傾向にあるが、自動車関係は下降気味となり前年並みとなる。電機関連は、中国市場の減速により稼働率低下。自動車部品は、米中貿易摩擦の影響で東南アジアへの輸出が減少、先行きを懸念。SUBARU関連は、徐々に稼働率が回復してきているものの、前年水準には至っていない。 |
| | その他の製造業 | | 木材は、原木の種類により製材品の売上に偏りが出ているものの、売上は前年並み。紙加工品は、連休明け数日間は前年並みの動きがあったが、後半にかけては全くと言っていいほど閑散としており、売上・収益ともに減少。ゴム製品も、売上・収益ともに減少。印刷は、依然として紙不足の状況となっている。 |
| 非製造業 | 卸売業 | | 高崎卸団地は、令和の慶祝ムードから展示会による売上が増加した一方、競争激化や運賃高騰、消費税増税を懸念。前橋卸団地は、米中貿易摩擦の地域経済への悪影響を不安視。太田卸団地は、個人住宅建築の伸び悩みで建築材卸が低迷。農産物卸は、連休後に取引低迷。水産物卸は、売上・収益ともに減少し業況悪化。 |
| | 小売業 | | 家電小売は、4K・8Kテレビ不振、エアコン好調の状況が続く。中古車オークションは、大型オークションに出品台数を集約できず前年実績を若干下回る。燃料小売は、原油価格・仕入価格の値下がり販売量減少により売上減少。生花小売は、「母の日」需要が伸び悩む。商店街は、地域により連休の影響に差が出る。 |
| | サービス業 | | 温泉旅館は、連休の影響で宿泊客数が増加したほか連休以降も好調を維持したところが多く、売上・収益ともに増加。安中市域における不動産取引は分譲地の取引が不活発となり、駆け込み需要もさほどないため低調な推移となる。自動車整備・建築設計は、売上・収益ともに前年並みに推移。 |
| | 建設業 | | 建設工事は、公共工事減少、民間需要停滞が継続、下請業者の確保や人件費増加等が問題となっている。解体工事も、民間工事に依存する状況のため売上減少。塗装工事は、連休中の仕事がなく売上減少。鉄構は、依然としてボルト納期が遅れている。電気工事は、受注量・収益状況は安定しているが、作業員不足が課題。 |
| | 運輸業 | | 全体的に、連休の影響による稼働日数減少に伴い、売上や配送量が減少している様子が見られる。また、5ヶ月連続となる原油価格の高騰が収益状況に影響を与えている。野菜関係は、キュウリ、ナス、トマトが前年並みに推移、梅が雹害により配送量激減。小口配送は、医薬品PET、引越し需要が前年水準となる。 |

※本調査は、情報連絡員56人が所属する組合の全体的な景況（前年同月比）です。

県内の主な経済指標

- 鉱工業生産指数(季節調整値) 99.4(前月比▲3.4%)「県統計課・4月」
- 住宅着工戸数 835戸(前年同月比▲25.0%)「県建築住宅課・4月」

- 求人倍率(季節調整値) 新規2.15倍・有効1.72倍「群馬労働局・4月」
- 大型小売店販売額 197億円(前年同月比▲1.1%)「経済産業省・4月」
- 消費者物価指数(全国) 101.8(前年同月比+0.9%)「総務省統計局・4月」
(鉱工業生産指数は27年=100とした指数・消費者物価指数は27年=100とした指数)